九州外国語学院 • 東京日本橋校

2020年度 自己点検・自己評価 【評価シート】

2021年6月15日作成

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

(1) 教育の	理念・目標	評価
1	(1) 1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2	(1) 2	学校の特色は何か	5
3	(1) 3	学校の将来構想を抱いているか	4
4	(1) 4	理念に基づく教育が行われているか	4

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

日本のレベルの高い学校への進学を通じ、留学生への高等教育の提供に資するという当校の理念・目的・育成人材像は設立時に定めており教職員間で共有されている。

当校は N5 から N1 まで幅広いレベルの受け入れをしており、専門、大学だけでなく大学院をも目指す環境ができている。

当校の将来構想は、九州外国語学院グループの中核として、首都圏における拠点校の 位置を築き上げることである。

設立から 4 年目を迎え、少しずつ進学実績も増えてきており、当校の進学指導の成功部分や今後の課題などが見え始めてきた頃である。しかしながら、コロナ禍での授業運営など新たな問題も生まれ、新しい授業形態を確立する過渡期にあると考えている。今後は今までの経験を踏まえ生かすべきところは生かし、新たに取り入れるところは躊躇なく取り入れていくなど、積極的な授業改革を行う必要があると考えている。

(2)学校	運	<u></u>	評価
5	(2)	1	運営方針は定められているか	3
6	(2)	2	事業計画は定められているか	2
7	(2)	3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	3
8	(2)	4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	(2)	5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
10	(2)	6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	2
11	(2)	7	危機管理体制は整備されているか	3
12	(2)	8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう	
			学校教育法に基づき整備されているか	5

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

運営方針は、学生数・教職員数も少ないことから、固定化するのではなく敢えて試行 錯誤での運営としている。

事業計画は主に学生数を増やし規模の拡大を図ることであるが、昨年に続き新型コロナウィルス感染症の影響が大きいが、可能な限りで学生の募集を行っている状況である。

運営組織や意思決定機能、人事や待遇、職場改善については、未だ少人数体制である こともあり、特筆すべきような問題は生じていない。

情報システム化については、九州外国語学院グループで9年前より開発・運用している独自システム(にほんごくん)を持ち込んで運用しており大きな問題はない。

学校運営についての客観評価 (第三者評価等) については今後の検討課題である。

危機管理体制については、九州外国語学院グループでの支援により、基本的な体制は 構築している。しかし危機管理体制の制度化、明文化という点については昨年に続き改 善中である。施設・設備は、学校教育法の基準に準じた告示基準に合致している。施設 的にも新しく問題は見当たらない。

(3) 財務	評価
13(3)1 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
14(3)2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
15(3)3 財務について会計監査が適正に行われているか	4
16(3) 4 財務情報公開の体制整備はできているか	2
< 現状・具体的な取り組み / 課題 >	

適正校認定を得、在留資格認定証明書の必要書類緩和により学生応募数増を見込んで

いたが、新型コロナウィルス感染症の影響で応募が困難なうえ、入国制限が続いているため入学辞退も続出し学生数が伸びず、学校経営を圧迫している。こうした中、雇用調整助成金、持続化給付金、提携金融機関による緊急融資などを使い財務的には何とか持ち堪えている状況である。コロナ禍が落ち着き、入国制限が緩和されるまで、我慢するしかないだろう。

予算・収支計画については、設置会社において策定・運用しており、またグループ全体 として連結運用しているため、有効性・妥当性の評価は難しく、どちらとも言えない。 会計監査については、上場企業等に求められる基準には至らないまでも、関与税理士 による年間ならびに半期での決算処理時点での監査に関与していただいている。

財務情報公開については、今後の検討課題である。

(4)法令遵守	評価
17(4)1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
18(4)2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
19(4)3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
20(4)4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	4
21(4)5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	4
。 明此 目 伊 ·孙··斯··斯··斯·· / 部	

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

法令、設置基準等の遵守に努め、入国管理局にも尋ねながら適正な運営に努めている。 学校内 LAN はファイヤーウォールの機器を設置しサーバーデータの外部への流出を 防ぐとともに、教職員の就任にあたっては個人情報保護に関する誓約書の提出を義務付 けている。 自己点検・自己評価の問題点の改善については、コロナ禍で対面でのコミュニケーションが制限されるといった状況もあり、通期を通したPDCAサイクルの軌道に乗せるまでには至っていない。

入国管理局をはじめ関係省庁への定期報告、随時報告については、遅延なき報告に努めている。

(5) 教職員評価22 (5) 1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか423 (5) 2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか424 (5) 3 教職員評価を行っているか3

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

当校の日本のレベルの高い大学院・大学・専門学校への進学を通じ、高等教育の提供に 資するという教育理念は、採用の際にも説明し、理解・納得した上で、採用に至っている。採用後の質向上に向けて、新人教師対象に期初に合同研修を行い、その後は教案チェック・授業見学を行っている。問題が生じたときの対応が現時点では教師によってばらつきがあるため、今後は体系的な取り組みが必要である。教職員評価に関しては、年度末に振り返りを行ってはいるものの、システム的に取り入れているわけではないので、今後実施していく予定である。また、オンライン授業や在宅勤務が増えたことにより、教職員も直接会う機会が減り、連絡が密にできていたとは言い難い状況であった。2021年度も同じような状況が続くと考えられるため、情報共有のあり方を考えていきたい。

(6) 地域貢献・社会貢献評価25 (6) 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか2

2

26 (6) 2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

社会貢献、学生のボランティア活動への奨励や支援については、現在新型コロナウィルス感染症の影響で取り組めていない現状であるため、今後いかに改善していくかが課題である。

(7)教育活動 評価		
(7)教育活動		
27 (7) 1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	
28 (7) 2 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	
29(7)3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた		
教員を確保しているか	4	
30 (7) 4 成績評価は適切に行われているか	5	
31(7) 5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5	
< 現状・具体的な取り組み / 課題 >		

当校の理念に基づいたカリキュラム・指導体制を福岡校のものを元に作成し、運営している。半期終了毎に進学実績や資格取得実績と照らし合わせ、授業の評価を行っているが、ま

だ開校 4 年目であり、学生数も少ないことから比較検討データが充分でないこと、コロナ 禍により学生数が減少していることなどからも更に数年かけて検証していく必要がある。 教員においては、十分な知識を備えた者を採用しているが、経験が浅い者が多いため、その後のフォローが必要である。成績は 4 技能を中間期末試験・授業態度・提出物などから相対 的評価をし、算出している。

(8)学生5	支援	評価
32 (8) 1	進学・進路指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
33 (8) 2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
34 (8) 3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、	
	有効に機能しているか	4
35 (8) 4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
36 (8) 5	保護者と適切に連携しているか	2
37 (8) 6	卒業生への支援体制はあるか	2
< 現状・具	体的な取り組み / 課題 >	

進学・進路指導は、当校が最も重視すべきものとして位置付け取り組んでいる。 また学生相談に対する体制も、学生数が少人数であるということもあり、アットホームな雰囲気で支援できている。

保護者への連絡については、問題がある学生への指導の場面で連絡を取り合うことで考えているが、現在のところ、そこまでの事案は発生していない。今後の検討課題と言えるだろう。卒業生への支援活動についても今後の検討課題である。

(9) 在留管理と生活指導評価38 (9) 1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか439 (9) 2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか440 (9) 3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか441 (9) 4 常に最新の学生情報を把握しているか2

入国・在留関係の管理・指導、支援については、入国・入学直後の諸手続き、期間更新時の取次ぎをはじめ、事務局にて対応している。日本社会を理解するための支援については、教務部門における授業内外での取り組みと生活指導活動サイドからのアプローチの両面から取り組んでいる。日本の法律とルールを守ることの重要性については、日本在留にあたり最重要事項として指導に努めている。この点については、繰り返し機会をみて指導していくことが肝要と理解しており、ある種ゴールのない取り組みである。いずれも、現段階では全く問題ないと考えるが、学生数が増えた段階では体制の強化が必要である。

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

学生情報の把握では、寮を離れた後の最新の住所、連絡先、同居人、アルバイト勤務先の把握が胆と考え取り組んでいる。現在オンライン授業が増えている中で直接学生とかかわることが減っている状況でいかに学生の情報を把握するかが今後の課題である。

(1	10) 入	.学者	fの募集と受け入れ	評価
42	(10)	1	学生の受入方針は定められているか	4
43	(10)	2	学生募集活動は、適切に行われているか	4
44	(10)	3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
45	(10)	4	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
46	(10)	5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか]

< 現状・具体的な取り組み / 課題 >

当校は、全員直接面接を基本に募集しており、学生受入方針の下、適切な募集活動ならびに教育成果を始め留学費用面も含め正確な情報伝達による募集活動に努めている。

入学選考は、母国での学歴と成績、日本語能力をベースとして面接試験によって決定しているが、募集国により教育環境や事前日本語学習環境、経済状況などが異なることから、全ての募集国に対して同等の選考基準とはしていない。この点においては、どちらとも言えない。

適正校として認定されたため募集がよりしやすくなったが、現在新型コロナウィルス 感染症の影響により海外出張ができない状況のため、オンラインによる募集活動に絞ら れる難しい状況が続いている。状況が落ちついた後どのように行動すべきか現在検討中 である。

総括

コロナ禍においても、現在のところ学生・教職員とも一人の感染者も出さず、また、オンライン授業の体制も整え、対面授業とのバランスもとりながら、教育環境を保持し、学校運営を守ってきたことは、高く評価したい。

しかし現在新型肺炎のため学生募集が非常に厳しい状況であるため、この状況下でどう持ちこたえ学校を存続させるかが今年度の課題である。